

# 配棟計画の比較検討表

<p>提案段階で十数案の検討を行い、配置パターンを5案まで絞りこみ、本計画において最も合理的な③の配棟計画で提案した</p> <p>※ 図中の「新庁舎（赤破線囲み着色）」は建物位置を示しており、計画建物の大きさではない</p>		①北側配置	②南側配置	③西側配置1	④西側配置2	⑤L字型配置
想定建物規模		4F	4F	4F	4F	西側4F、南側1F
工事中	1. 架構計画による工期・コストへの影響	○ 四角い整形平面は架構計画しやすく工期・コストの増加要因とならない。	○ 四角い整形平面は架構計画しやすく工期・コストの増加要因とならない。	○ 四角い整形平面は架構計画しやすく工期・コストの増加要因とならない。	○ 四角い整形平面は架構計画しやすく工期・コストの増加要因とならない。	△ L字平面は構造的な偏りが生まれ、架構計画に工夫が必要となりコスト増。
	2. 仮設工事範囲による工期・コストへの影響 ※①案の仮設範囲(新庁舎外周長さ)を1とした場合の指標も示した	△ 新庁舎工事範囲だけでなく現庁舎への進入路や、駐車場への経路にも仮設が必要。	○ 新庁舎廻りで仮囲いや工事ヤードが完結でき経済的。仮設工事範囲の指標は1.0	○ 新庁舎廻りで仮囲いや工事ヤードが完結でき経済的。仮設工事範囲の指標は0.9	○ 新庁舎廻りで仮囲いや工事ヤードが完結でき経済的。仮設工事範囲の指標は0.8	△ 面積に比して建物外周が長く仮設範囲が広くなりコスト増。仮設工事範囲の指標は1.3
	3. 工事中の安全な庁舎アクセスと、避難への配慮	△ 正面が塞がれることで、来庁者通路確保が困難。来庁者駐車場の別途確保も必要。	△ 来庁者アクセスは問題ないが、南別館へのアクセスについては、別途通路の確保必要。	△ 現庁舎西側入口が塞がれ、南別館へは別途通路確保が必要。来庁者駐車場を別途確保必要。	○ 来庁者のアクセスについては、本庁、南別館共に影響はない。	△ 来庁者アクセスは問題ないが、来庁者駐車場を別途確保必要。南別館への通路も別途確保必要。
竣工後	4. 官庁街中筋から新庁舎入口までの歩行者アクセスと正面性	○ 官庁街中筋に面しており、歩行者アクセス容易。税務署と正面を合わせ連続性保てる。	△ 正面を八幡山に向けることが出来るが、官庁街中筋から新庁舎までの歩行動線が長い。	○ 官庁街中筋と南筋に面し、多様なアクセス可能。正面が東側広場に向くことで一体感持てる。	△ 奥まった配置で官庁街中筋から新庁舎までの歩行距離が長く、中筋からの視認性も悪い。	○ 官庁街中筋と南筋に面し、多様なアクセス可能。正面が東側広場に向くことで一体感持てる。
	5. 来庁者駐車場用地への車両アクセス計画の自由度	△ 新庁舎が壁となり、来庁者駐車場用地への車両動線が中筋からは確保できない。	○ 来庁者駐車場用地への車両動線が中筋からも南筋からも確保できる。西側空地を公用車駐車場とすれば、車両動線の交錯ない計画が可能。	○ 来庁者駐車場用地への車両動線が中筋からも南筋からも確保できる。西側空地を公用車駐車場とすれば、車両動線の交錯ない計画が可能。	○ 来庁者駐車場用地への車両動線が中筋からも南筋からも確保できる。	○ 来庁者駐車場用地への車両動線が中筋からも南筋からも確保できる。西側空地を公用車駐車場とすれば、車両動線の交錯ない計画が可能。
	6. 動線計画(庁舎内動線や避難への配慮等)	○ 庁舎内動線はコンパクト。避難については、道路、広場に面しており合理的。	○ 庁舎内動線はコンパクト。避難については、道路、広場に面しており合理的。	○ 庁舎内動線はコンパクト。避難については官庁街中筋、南筋、広場に面しており合理的。	○ 庁舎内動線はコンパクト。避難については官庁街中筋、南筋、広場に面しており合理的。	△ 建物が広場に面するのは避難上合理的だが、建物形状が細長く庁舎内動線は非効率。
	7. 執務環境(日照・採光・通風への配慮等)	○ 南側に開放性が高く、十分な日照・採光が可能。南北に通風を取りやすい。	○ 北側に開放性が高く、十分な日照・採光が可能。南北に通風を取りやすい。	△ 東側に開放性が高く、通風と十分な日照・採光が可能。ルーバー等西日対策は必要。	△ 奥まった位置に奥行き深い建物となり、日照・採光に不利。通風も取りづらい。	△ 北東側に開放性が高く、通風と十分な日照・採光が可能。ルーバー等西日対策は必要。
	8. 庁舎前広場の位置・形状(広場デザインのフレキシビリティ)	△ 南側にまとまった形で広場を確保できるが、官庁街中筋との繋がりが希薄。	○ 官庁街中筋に沿ってまとまった形状で広場を確保できる	○ 官庁街中筋に沿ってまとまった形状で広場を確保できる	△ 官庁街中筋に沿ってまとまった形状で広場を確保できるが、新庁舎との位置関係が悪い	○ 官庁街中筋に沿ってまとまった形状で広場を確保できる。
	9. 周辺施設との連携(南別館・市民広場との関係)	△ 南別館と新庁舎の距離が遠い。庁舎前広場と市民広場が分断。	○ 南別館と新庁舎の距離が近く視認性も高い。庁舎前広場と市民広場の一体的利用が可能。	○ 南別館と新庁舎の距離が近く視認性も高い。庁舎前広場と市民広場の一体的利用が可能。	○ 南別館と新庁舎の距離が近く視認性も高い。庁舎前広場と市民広場の一体的利用が可能。	○ 南別館と新庁舎の距離が近く視認性も高い。庁舎前広場と市民広場の一体的利用が可能。
	10. 周辺環境に与える圧迫感への配慮	△ 東西に長い壁となり、道路に対して圧迫感。また、駅から旧市街への南北軸を塞ぐこととなる。	△ 東西に長い壁となり、道路に対して圧迫感。また、駅から旧市街への南北軸を塞ぐこととなる。	○ 東西に短く、南北軸が通り、市民広場との一体性が生まれる。官庁街中筋に対して、税務署と壁面を揃えることで圧迫感を和らげる。	△ 西側に寄せることで、庁舎前広場と市民広場には一体性が生まれるが、西側道路や住宅街に対しては圧迫感。	△ 東西に長い壁となり、駅から旧市街への南北軸を塞ぐこととなる。
総合評価	<p>工事中のアクセスや、周辺施設との連携に難がある。中筋に対して新庁舎が壁となるため圧迫感高く、庁舎前広場と官庁街中筋や市民広場との連携も持たせづらい。本計画に不適切。</p> <p>×</p>	<p>工事中のアクセスや、官庁街中筋との関係に難がある。庁舎前広場と官庁街中筋や市民広場の連携、新庁舎と南別館の連携は持たせやすいが、南筋への圧迫感は解消しづらい配棟。</p> <p>△</p>	<p>官庁街中筋と南筋をつなぐように、新庁舎と広場を横並びに配置することで、コンパクト性やアクセス性を確保しつつ、周辺施設との連携や執務環境の快適性を実現しうるメリットの多い配棟計画。</p> <p>○</p>	<p>コンパクトな平面で仮設工事範囲も抑えられ、庁舎前広場も広く取れるが、執務環境の快適性や新庁舎と庁舎前広場の連携が難しい建物平面形状と配置であり、本計画に不適切。</p> <p>×</p>	<p>周辺施設との連携や、執務環境の快適性は確保できるが、前計画よりも面積が減った今回の計画では、構造的な偏りや動線の長さといったL字形のデメリットの方が強く出てしまう。</p> <p>×</p>	
備考: いずれの計画も、眺望性に変わりなく(いずれの場合も、八幡山に連なる山並みへの眺望を確保可能)、日射しの確保による屋根の融雪性も(周囲に影をつくるような中高層建物は無い)条件は同じである。						